

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成26年度 FDのための情報技術研究講習会
開催要項

<http://www.juce.jp/tech2014/>

- 開催日程：平成27年2月25日(水)～27日(金)
- 会場：追手門学院大学（大阪府茨木市）
- 対象者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学の教員（助教含む）

国は、平成25年から29年度までの5年間を「大学改革実行集中期間」と位置付け、アクティブ・ラーニングをはじめとする教育の質的転換、地域社会や世界を視野に活躍できる人材の育成などを旨とした全学的な改革行動に取り組む大学を重点的に財政支援するとしています。平成27年度は3年目に入り、大学の使命としてアクティブ・ラーニング等による教育の質的転換に取り組むことが強く要請されています。

そのため平成26年度の本研究講習会では、事前・事後の学修を促進するための教材作成、学生が能動的に学ぶための仕掛けと授業方法など、ICTを活用した教育改善手法の習得を目的に以下の3つのコースを設定いたしましたので、コース概要及び内容等を勘案の上、お申し込み下さい。

1. 共通講義

改革行動に取り組むための教員の姿勢・教育手法について理解を共有した上で、「学生が能動的に学ぶ授業」を実現するための授業マネジメントや学修支援の仕組みなどについて理解を深めます。

共通講義1（1日目）10：00～11：40

授業事例1 能動的学びを実現する「話し合い学習法」と学修支援ポータルシステムを用いた質保証への取り組み

高木功 氏（創価大学日本語・日本文化教育センター長）

授業事例2 看護教育に映画を活用したアクティブ・ラーニングの試み

花田裕子 氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻教授）

情報提供 大学教育における著作権処理への配慮

中村壽宏 氏（神奈川大学大学院法務研究科教授）

共通講義2（2日目）13：00～14：45

事例ビデオ 「学ぶ」から「できる」へ ～経営系科目のアクティブ・ラーニング～

（質疑はメール対応） 西村宣彦 氏（長崎大学経済学部教授）

授業事例3 工学教育における反転授業の試み

森澤正之 氏（山梨大学教育国際化推進機構、大学教育センター副センター長）

授業事例4 国際基準に基づくアウトカム基盤型カリキュラムの構築と実践

吉岡俊正 氏（東京女子医科大学理事長）

2. コースのプログラム

タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース

<コース概要>

事前・事後の自己学修などを促進するために、PCだけでなくタブレット端末での利用を想定した動画を含めた電子書籍型教材の作成技術を獲得し、実際に自己学修で使用する教材の作成を目指します。

作成する教材は文字や静止画像だけでなく、プレゼンテーションに音声を付けた短い動画も含めたマルチメディア教材を、簡単な作成ソフトで電子書籍として完成させます。教材作成の実習は会場にパソコンを用意しています。なお、ご自分のタブレットで作成した電子書籍を閲覧することができます。

<使用するソフトウェア>

※ ビジュアルプレゼンテーションソフト（クラウドベース）Prezi

※ スクリーン動画キャプチャ CamStudio Portable

- ※ 動画・音声形式変換ソフト XMedia Recode Portable
- ※ EPUB3 電子書籍作成ソフト (クラウドベース) My いーぱぶ 35

<参加要件>

- ※ 講義などでプレゼンテーションソフトを利用している方、静止画・音声・動画などの利用に関心のある方

<事前準備>

- ※ 事前・事後学修用の教材を作成する資料として、テキストや静止画、プレゼン資料などを持参下さい

<コース内容>

【1日目】到達度：ビジュアルプレゼンテーション資料の作成技術を獲得する

10:00	共通講義 1	※ 全員が合同で受講
12:40	実習	Prezi を用いたプレゼンテーションの作成方法
15:00	実習	音声入力とプレゼンテーション画面の録画、ファイル変換方法

【2日目】到達度：教材を電子書籍化する技術を獲得する

9:30	実習	オーサリングツールを用いた電子書籍型教材の作成方法
13:00	共通講義 2	※ 全員が合同で受講
15:00	実習	自己学修で用いる電子書籍型教材の作成

【3日目】到達度：学生が自己学修で用いる電子書籍型教材を完成させる

9:30	実習	ピアレビューとグループ討議
13:00	実習	電子書籍型教材の修正
15:00	総括	全体討議とまとめ

LMS活用コース

<コース概要>

このコースでは、LMS(Learning Management System)を利用した事前・事後学修の展開、授業内での学生レスポンスの取得、双方向性を高めるタブレット利用など、学生参加型のアクティブ・ラーニングに求められる手法とLMSの活用技術の習得を目指します。

講習ではタブレットを体験いただくために、参加者全員に教室仕様でのiPadを用意しています。ただし、ご自分のタブレットをご利用になりたい方は持参いただいても結構ですが利用できない場合もあります。

<参加要件>

- ※ LMSを用いた授業に関心のある方で、ワープロ、パワーポイントなど、基本的なアプリケーションを用いた教材作成ができる方

<事前準備>

- ※ 授業または事前・事後学修用の教材を作成する資料として、テキストや画像、プレゼン資料などを持参下さい

<コース内容>

【1日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニングのテクニックを知る

10:00	共通講義 1	※ 全員が合同で受講
12:40	講義	アクティブ・ラーニングとは(双方向・参加型授業コースと合同)
14:00	講義	学生の参加を促すICT利用手法の紹介と解説
15:00	実習	自分の授業での学生参加型アクティブ・ラーニングをイメージする

【2日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニング実現に向けたICT活用技術を獲得する

9:30	講義	予習にLMSを活用するためのテクニック(映像配信、ディスカッションボード・クイズ機能)
10:15	実習	LMSの基本技術の習得
11:15	講義	LMSによる学生レスポンス取得、グループ学修、バッジ(修了証)機能と進捗確認
13:00	共通講義 2	※ 全員が合同で受講
15:00	実習	LMSを利用した授業の設計
15:45	講義	双方向性を高めるタブレット活用例の紹介
16:15	実習	タブレットの授業利用(学生レスポンスの取得、プレゼンテーションでの利用)

【3日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニングにICTを活用できるようにする

9:30	実習	ICTを活用した学生参加型授業をつくる
13:00	実習	ピアレビューとグループ討議
15:00	総括	全体討議とまとめ

双方向・参加型授業コース

<コース概要>

このコースでは、教員と学生、学生同士による双方向・参加型の授業マネジメントに関する基礎的な事項を理解した上で、問題発見・解決型授業やチーム学修による対話型授業を用いたアクティブ・ラーニングの手法について体得することを目指します。また、それらを用いた反転授業のテクニックについても紹介します。

<参加要件>

※ 双方向・参加型授業及び反転授業に関心のある方

<コース内容>

【1日目】到達度：双方向・参加型の授業マネジメントを探求する

10:00	共通講義 1	※ 全員が合同で受講
12:40	講義	アクティブ・ラーニングとは(LMS活用コースと合同)
14:00	講義	学力不足への対応策
15:00	演習	参加者各自の授業をアクティブ・ラーニング化

【2日目】到達度：アクティブ・ラーニングの事例を学ぶ

9:30	講義	アクティブ・ラーニングの成功と失敗事例
11:00	講義	アクティブ・ラーニングのICT活用
13:00	共通講義 2	※ 全員が合同で受講
15:00	講義	反転授業づくりのテクニック(授業事例3の詳細紹介)
16:00	パネルディスカッション	反転授業の実現に向けて(森澤氏 山梨大学、家本運営委員、今井運営委員)

【3日目】到達度：授業のアクティブ・ラーニングを構築する

9:30	演習	参加者各自の授業をアクティブ・ラーニングとしてつくる
13:00	実習	ピアレビューとグループ討議
15:00	総括	全体討議とまとめ

- 募集定員：タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース 50名、LMS活用コース 50名、双方向・参加型授業コース 50名
- 参加費：加盟校一人当たり45,000円 非加盟校は67,500円
- 申込方法：申し込み用紙に必要事項を記入の上、事務局までFAX送信をお願いいたします。
※申し込み締め切りは平成27年2月17日(火)必着とします。
※申し込み者多数の場合は、先着順とさせていただきます。申し込み状況は本講習会Webサイトに掲載します。
- 参加費振込：下記口座に2月17日(火)までに参加費を振込み下さい。
りそな銀行 市ヶ谷(いちがや)支店
普通口座 0054409
私情協(シジョウキョウ)
※ 2月20日までにキャンセルの連絡をいただいた場合、振込手数料を除いた参加費を返金いたします。それ以降のキャンセルは、さらに実費(テキスト代等)もご負担いただきますのでご了承下さい

会場までのアクセス

追手門学院大学 大阪府茨木市西安威2丁目1番15号 TEL:072-641-9608(総務課)

追手門学院大学へお越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。駐車場の準備はございません。

大阪方面から最寄り駅までの交通

JR 京都線・大阪駅 → 茨木駅 快速 約12分、阪急京都線・梅田駅 → 茨木市駅 特急 約17分

大阪モノレール・大阪空港駅 → 宇野辺駅 約21分

最寄り駅から大学までは、スクールバスをご利用ください。



JR 茨木駅・大阪モノレール宇野辺駅 スクールバスのりば

※詳細は大学 Web サイトをご確認下さい。 <http://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access/>



阪急茨木市駅スクールバスのりば

平成26年度FDのための情報技術研究講習会(FAX 申し込み用紙)

このページをコピーして必要事項を記入の上、03-3261-5473 までFAX 送信願います。

大学名 _____

連絡担当者

氏名 _____ 所属・役職 _____

E-Mail _____ TEL _____

参加希望者

①氏名 _____ 所属・役職 _____

E-Mail _____ TEL _____

希望コース タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース

 LMS活用コース

 双方向・参加型授業コース

 ※ 希望するコースを一つ ○ で囲んでください。

②氏名 _____ 所属・役職 _____

E-Mail _____ TEL _____

希望コース タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース

 LMS活用コース

 双方向・参加型授業コース

 ※ 希望するコースを一つ ○ で囲んでください。

③氏名 _____ 所属・役職 _____

E-Mail _____ TEL _____

希望コース タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース

 LMS活用コース

 双方向・参加型授業コース

 ※ 希望するコースを一つ ○ で囲んでください。